

# sanwa

# sanwa

発売元

**三和電気計器株式会社**

本社=東京都千代田区外神田2-4-4・電波ビル  
郵便番号=101・電話=東京(03)253-4871(代)  
大阪営業所=大阪市浪速区恵美須西2-7-2  
郵便番号=556・電話=大阪(06)631-7361(代)

製造元

**株式会社三和計器製作所**

東京都昭島市武蔵野3-11-3  
郵便番号=196・電話=昭島(0425)41-3321(代)

# STH-500

## デジタル温度計

取扱説明書

## 保証書

ご芳名

様

形名 STH-500

製造No.

-

ご住所

この製品は厳密なる品質管理を経てお届けするものです。

本保証書は所定項目を御記入の上保管していただき、アフターサービスの際御提出下さい。

※裏面の保証規定をよくお読み下さい。

※本保証書は再発行はいたしませんので大切に保管して下さい。

TEL

保証期間

御購入日

年 月 日より1ヶ月間

三和電気計器株式会社

本社=東京都千代田区外神田2-4-4・電波ビル  
 郵便番号=101・電話=東京(03)253-4871(代)

## デジタル温度計

### STH-500形

### 取扱説明書

このたびは、**STH-500**形温度計を御買い上げいただき、誠にありがとうございました。

**STH-500**形は片手で温度測定の手続きが全て出来るように測温部と本体を一体化した温度計です。

測温センサには白金薄膜測温抵抗体を使用しておりますので、 $-50.0 \sim 450^{\circ}\text{C}$ の広範囲で高精度の温度測定が出来ます。

### 特長

- ・測温部と本体を一体化。
- ・片手で温度測定の手続きが全て出来るハンディタイプ。
- ・食品関係の内部温度測定に最適。
- ・白金薄膜測温抵抗体の採用と分解能切換方式により、 $-50.0 \sim 450^{\circ}\text{C}$ の広範囲で高精度測定が可能。
- ・LCDバックライト機能付。
- ・データホールド機能付。

## § 定 格

测温センサ	白金薄膜测温抵抗体 (0℃にて1000Ω)
测温範囲	-50.0~199.9℃, -50~450℃ 2レンジ切換式
分解能	0.1℃/1℃
確 度	± (0.5%rdg+0.5℃) / ± (0.5%rdg+2℃)
サンプリングレート	約2.5回/秒
表 示	最大1999LCD 最大桁1のみでオーバー表示。 ℃単位表示。データホールド時M表示。 バッテリーアラーム $\square$ 表示。

センサ応答速度  
(90%) 約7秒間

LCDバックライト機能付

データホールド機能付

使用温・湿度範囲 0~50℃ 80%RH以下 (結露のないこと)

保存温・湿度範囲 -10~50℃ 80%RH以下

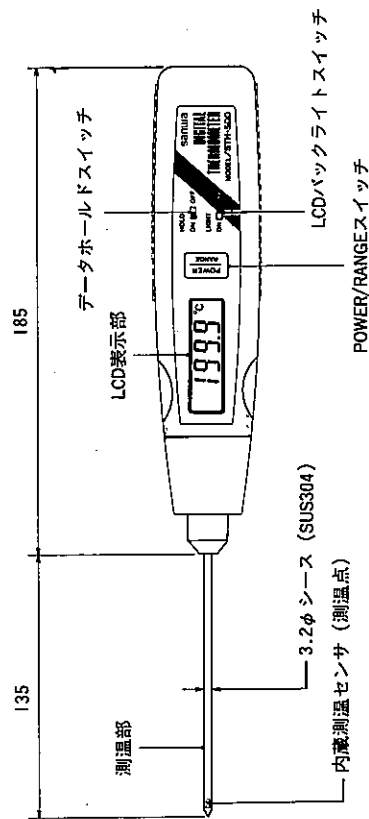
使用電源 SUM-3×4本 連続使用約250時間  
(但し常温でバックライトを使用しない場合)

寸法・重量 320×42×31mm 約210g

付 属 品 取扱説明書 1部

別売付属品 携帯ケース (C-STH)

## § 各部の名称



第1図

## § 使用上の注意事項

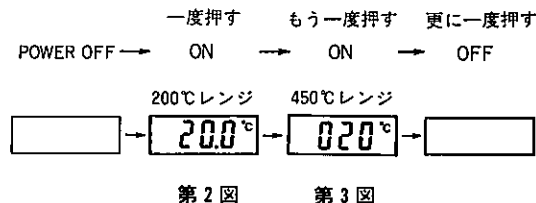
1. ご使用に際して、まず本器の電池の確認をして下さい。  
電池については8頁を参照して下さい。
2. 食品関係の内部温度の測定が出来る様に测温シースの先端は尖っておりますので、注意してご使用下さい。
3. 测温センサの白金薄膜测温抵抗体は、約420℃で一度熱処理した後に規定の抵抗値に設定されていますので、450℃以上の測定をされますと测温センサの規定の抵抗値が変化して、本器の定格を満足できない状態になります。又、約550℃以上の測定をされますと白金薄膜测温抵抗体が剥離して测温センサが不良になりますので、450℃以上の温度測定はしないで下さい。
4. 定格のセンサ応答速度は室温から沸騰水（約100℃）中の温度測定の場合で測定条件及び測定対象によって異なります。
5. 本器の表示部及び测温部には強い衝撃などを加えないようにして下さい。  
又、本器は本体と测温部が一体となっておりますが、本体は防滴構造ではありませんので、シース以外には水がかからないように注意して、ご使用下さい。
6. 衝撃や振動の多い所、直射日光の下、高温（又は低温）、多湿な場所などへは長期間放置しないようにして下さい。  
又、長期間使用しないときは、電池を取りはずして下さい。
7. その他、ご不明な点や技術的なご質問は取扱説明書の裏表紙に記載されております発売元又は製造元へお問い合わせ下さい。  
尚、技術的なご質問は出来るだけ製造元へお願いします。

## § 使用法

ご使用になる前に前記 § 使用上の注意事項 の項目を熟読の上、ご使用下さい。

### 1. 操作方法

データホールドスイッチがOFFの状態ではPOWER/RANGEスイッチを一度押しますと第2図のようにPOWER ONで200℃レンジになり、もう一度押しますと第3図のようにPOWER ONで450℃レンジになります。そして、この状態で、更に一度押しますとPOWER OFFとなります。これを図示しますと下図のようになります。



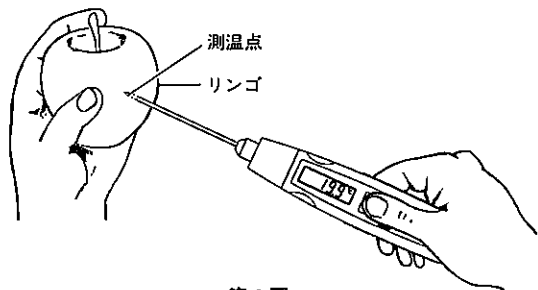
### 2. 測定方法

本器はシースの先端付近に内蔵されている测温センサの温度（测温点）を表示しますが、測定対象に応じた温度測定を行なう必要があります。

まず、POWER ONにして任意のレンジにします。

## 2-1 内部温度の測定

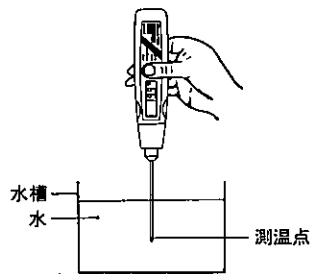
第4図のように測温物（リンゴ）の内部にシースの先端を入れますと、測温点の温度が表示されます。



第4図

## 2-2 液体の温度測定

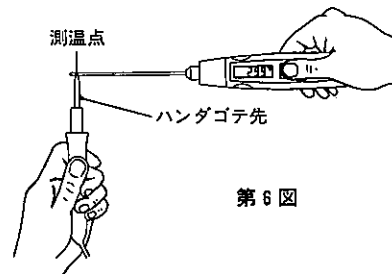
第5図のように測温物（水）中にシースの先端を入れますと測温点の温度が表示されます。



第5図

## 2-3 表面温度の測定

第6図のように測温物（ハンダゴテ先）にシース先端付近を接触させますと測温点の温度が表示されます。



第6図

測定終了後は必ずPOWER OFFの状態にして下さい。

## § データホールド機能

POWER ONの状態データホールドスイッチをONにしますと表示値をホールドすることが出来ます。この場合、第7図のように表示部にMが表示されてデータホールド状態であることを示します。そして、データホールドスイッチをOFFにしますとデータホールドが解除されます。



第7図

## § LCDバックライト機能

POWER ONの状態ではLCDバックライトスイッチをONにしますと液晶がバックライトされて、暗い場所での温度測定が出来ます。

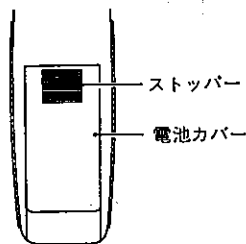
## § 電池

### 1. 電池の取付

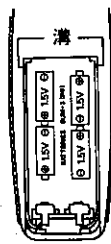
1-1 第8図において、本器背面にある電池カバーのストッパーのところを指で強く押し、手前に引き抜くようにして電池カバーをはずします。

1-2 乾電池（単3）4本を第9図の中に描いてある極性どおりに正しく入れます。この際、奥の乾電池2本から入れるようにしますとスムーズに電池の取付けが出来ます。

1-3 電池カバーを第9図の溝に乗せ、すべらせるようにして押し上げ元どおりにします。



第8図



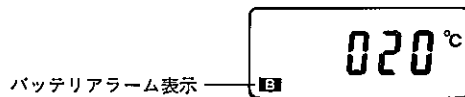
第9図

### 2. 電池の交換

POWER ONの状態では第10図のように表示部にバッテリーアラーム表示のBが表示された場合は、内蔵電池が消耗して本器の定格を満足できない状態ですので、新しい電池と交換する必要があります。

又、POWERスイッチを押して表示部に何も表示されない場合も同様に電池を交換して下さい。

電池の交換は前記1. 電池の取付と同様の要領で行なって下さい。



第10図

説明書中の仕様は性能向上のため、お断りなく変更することがあります。